

令和5年度 小平第二みどり作業所 事業報告書

1 総括

新型コロナウイルス感染症が感染症法上で第5類に移行となったことに伴い、令和5年度は、コロナ禍で中止、自粛等を行っていた活動を徐々に再開することが出来た。音楽教室の再開やレクリエーションでの外出を増やしたことにより、利用者から気分転換につながったなどの感想を聞くことができた。また、クッキーやパンなどの販売イベントについては、コロナ流行前の8割程度まで再開することができ、クッキー、パンともに売り上げは年間の目標に達することができた。一方で、基本的なマスク着用、消毒、換気等の感染防止策はこれまで通り継続したが、1月に事業所内で利用者、職員合わせて9名が新型コロナウイルス感染症に罹患した。重症者はなく安堵したところであるが、今後も引き続き感染症対策の徹底を図りたい。

令和2年度以降重点目標に掲げているPDCAサイクルの実施による利用者支援の充実と就労支援の充実については、年々少しずつ成果は出ているものの、まだ不十分な点が多いと感じている。また、昨年度の大きな課題であった職員の定着率の向上については、5年度も中堅2名が退職となり十分な成果が出ていない。6年度も引き続き同様の課題を重点目標に据えて継続して取り組んでいきたい。

2 事業概要

- 1) 施設名 小平第二みどり作業所
- 2) 事業種別 就労継続支援B型
- 3) 所在地 東京都小平市天神町3-7-16
- 4) 経営主体 社会福祉法人 未来
- 5) 利用定員 40名
- 6) 利用現員 48名 (令和6年3月31日現在)
- 7) 法人認可年月日 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 平成20年4月1日
- 9) 職員 14名 (令和6年3月31日現在)

管理者	1名	常勤1
サービス管理責任者	1名	常勤1
職業指導員	4名	(常勤換算4.0)
生活支援員	7名	(常勤換算4.6)
目標工賃達成指導員	1名	常勤1

- 3 基本理念 一人ひとりの自己実現
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
安心と希望の持てる生活

4 基本方針

- 1) 就労支援
 - ① 利用者の個々の特性にあった就労支援事業の活性化
 - ② 生き生きと働ける職場
 - ③ 職業指導の充実
 - ④ 賃金の保障
 - ⑤ 就労移行支援の実施
- 2) 生活支援
 - ① 日中活動の支援
 - ② 豊かな生活の支援
 - ③ 利用者一人ひとりの主体的な生活の支援
 - ④ 個別支援計画に基づいた計画的な支援

- ⑤ 利用者への相談支援
- ⑥ 安心できる将来への支援

5 実施事業（活動内容）

1) 就労支援事業

- ① クッキー製造・販売
- ② パン製造・販売
- ③ 公園清掃
- ④ マンション清掃
- ⑤ 受注作業（ボーロ入れ作業等）

2) 生活支援事業

- ① レクリエーション（月1回実施）
- ② 音楽教室（4月～11月まで中止、12月～3月まで月1回実施）
- ③ 旅行（年1回実施）
- ④ 生活支援プログラム（週3日実施・ウォーキングのみ）
- ⑤ 夕方生活支援事業（週2日実施）

3) 行事

- 4月 永年勤続表彰式・新社会人を祝う会
- 5月 運動会
- 6月 アニメーションミュージアム
- 7月 川遊び
- 8月 江戸東京たてももの園
- 9月 JRA 競馬博物館
- 10月 一泊旅行
- 11月 多摩動物公園
- 12月 忘年会（ビンゴ・ボーリング）
- 1月 初詣
- 2月 時計づくり
- 3月 散歩

6 日 課

開所・送迎・清掃	8:30～	9:15
朝 礼	9:15～	9:30
作 業	9:30～	10:30
休 憩	10:30～	10:45
作 業	10:45～	11:45
片付け	11:45～	12:00
昼休み	12:00～	13:00
昼 礼	13:00～	13:15
作 業	13:15～	14:15
休 憩	14:15～	14:30
作 業	14:30～	15:30
終 礼	15:30～	15:50
送 迎	15:50～	16:30
清掃・記録等	16:30～	17:00
職員打ち合わせ	17:00～	17:30

7 重点課題・目標に対する成果と課題

1) 活動

(1) PDCAサイクルの実施による利用者支援の充実

- ①長期目標、短期目標、支援上の重点との関連付けを整理し個別支援計画を作成する。
(計画作成、評価において、職員間の情報及び意見交換を活発に行い、計画に活かす。)
- ②支援方針、支援目標や目的を全職員で共有する。
- ③個別支援計画に基づいた統一した支援を行い、支援経過を共有するとともに丁寧に記録し、それに基づいた評価、見直しを実施する。

【成果と課題】

個別支援計画を意識した支援の実施や丁寧なケース記録を書くということは定着してきているが、利用者の行動の背景や心情面に対する考察が不十分なこともあり、課題の原因の探求や解決の為の手法を適切に導き出すに至っていないことが多かった。また、個別支援計画の見直しにおいても、評価内容と目標設定、また目標と支援方法の関連が不十分なものもあるため、事業所全体のスキルの向上が必要と感じている。ただし、見直しや計画作成において、これ迄十分に行えなかった職員間の意見交換を活発に行い、支援方針や支援目標を職員間で共有することについては改善がみられた。

(2) 就労支援事業の充実

- ①作業指導の充実や自分に合った仕事の提供により、やりがいのある仕事を通じて利用者一人ひとりが職業人として成長する。

【成果と課題】

朝・昼礼時や日頃の会話などから利用者の意向を確認し、できるだけ利用者の希望に沿った作業が行えるよう取り組んだ。また、未経験の作業や工程に取り組むよう積極的に働きかけることで、48名中38名の利用者の作業の幅を広げることができた。継続して作業を行うことで、殆どの利用者は仕事に対する責任感や自信を持ち、個々の作業に取り組むことができた。

- ②職員の担当を重層的にする(各職員が複数の業務に関わり技能等を習得する)ことで、各作業が中長期的に安定して行える体制を作る。
 - ・新規採用職員の全作業への配置。
 - ・パン及びクッキー作業担当職員の定期的な配置の交換。

【成果と課題】

3名の新人職員は複数の作業に計画的に携わったが、職員が計画通り充足せず(7月末に充足したが10月末に1名退職)、職員体制のやりくりが難しく全作業へ配置することはできなかった。また、その他の職員についても、全職員が自分の担当業務以外の作業に携わったが、同じ理由により数回の実施に留まった。しかし、前年度と比較すると、担当以外の作業に携わる職員が増えたことにより、以前よりは柔軟に職員配置が行えるようになった。重層的な業務の体制を作るには一時的に非効率な職員配置とならざるを得ず、まずは職員体制の安定化が必要であり、次年度以降も継続した取り組みが必要と考えている。

- ③パン、クッキー製造など一定の技能が必要な作業については、定期的(担当全職員月2回)な練習により職員の技能向上を図る。

【成果と課題】

クッキー、パン作業ともに日々の活動を通して実践的に製造練習を積み重ねたほか、製造量の少ない日などに合わせて定期的に製造練習を実施した。担当職員全般的に技術の向上が見られた。

- ④ ①～③の実践により工賃向上を行う。

	令和4年度実績	令和5年度目標
月額平均工賃	11,182円	12,300円

【成果と課題】

	令和4年度実績	令和5年度目標	令和5年度実績	令和5年度実績 (東京都計算方法)
時給	204 円	210 円	239 円	
日給	688 円	700 円	804 円	
月給 (東京都計算方法)	11,182 円 (11,746 円)	12,300 円	11,879 円	14,886 円

⑤各作業における戦略と目標

ア クッキー製造作業

- ・職員配置 1 日平均 3 名 (クッキー事業リーダー 1 名、パン事業リーダー 1 名、新規採用職員 3 名、その他 3 名の計 8 名のローテーションを作成)
- ・注文販売先の現状維持及びイベント販売への対応強化 (製造能力向上)
- ・目標

	令和 4 年度実績	令和 5 年度目標
年間製造個数	31,000 個	30,800 個
年間売上	5,202,188 円	5,100,000 円

【成果と課題】

- ・職員配置の目標を 1 日平均 4 名としたが、下半期に事業所全体で作業に携わる職員数を精査し、1 日平均 3 名を目標とする計画に変更し、計画通り配置することができた。また、職員により回数に差はあるもののローテーションについても計画通り 8 名で組むことができた。
- ・注文販売先は前年度と比べて 3 件増、イベント販売も前年度と比べて 8 件増えたことも影響し、製造数及び売り上げともに目標を上回った。

《製造個数及び年間売上》

	令和 5 年度目標	年間実績	目標達成率
年間製造個数	30,800 個	31,209 個	101.3%
年間売上	5,100,000 円	5,383,278 円	105.5%

	令和 5 年度実績	4 年度実績	前年度との差額
年間製造個数	31,209 個	31,000 個	209 個
年間売上	5,383,278 円	5,202,188 円	181,090 円

イ パン製造作業

- ・職員配置 1 日平均 3 名 (クッキー事業リーダー 1 名、パン事業リーダー 1 名、新規採用職員 3 名、その他 3 名の計 8 名のローテーションを作成)
- ・新商品の開発 (12 種類)
- ・商品ロスの削減 (店舗の売れ残り商品を出張販売にて販売する)
- ・目標

	令和 4 年度実績	令和 5 年度目標
年間製造個数	22,400 個	23,000 個
年間売上	3,070,000 円	3,040,000 円

【成果と課題】

- ・職員配置の目標を 1 日平均 4 名としたが、下半期に事業所全体で作業に携わる職員数を精査し、下半期は 1 日平均 3 名を目標とする計画に変更し、計画通り配置することができた。しかし、ローテーションについては、他の業務との兼ね合いで 4 名のローテーションで組むこととなり、目標の 8 名には達しなかった。

- ・年間を通しては46品の新商品の試作を行ったうち37品を商品化し、売行きは好調であった。残りの9品は、コスト面や成形の難しさなどの理由により商品化しなかった。
- ・商品ロスの削減については、市内保育園1箇所と連携し、店舗で売れ行きが悪かった商品を当日の内に保育園の保護者を対象に販売したことで、製造した全ての商品を廃棄することなく完売することができた。
- ・前年度と比較し、利用者及び職員の製造技術向上等により製造数が増加し、売上も増額した（1日当たりの最大製造個数120個、前年度は100個）。

《製造個数及び年間売上》

	令和5年度目標	令和5年度実績	目標達成率
年間製造個数	23,000個	25,912個	112.6%
年間売上	3,040,000円	3,789,417円	124.6%
	令和5年度実績	令和4年度実績	差額
年間製造個数	25,912個	22,400個	3,512個
年間売上	3,789,417円	3,070,000円	719,417円

⑥その他の作業を含めた収入目標

	令和5年度目標（円）	令和4年度実績	差額
クッキー製造事業	510万	520万	△10万円
パン製造事業収入	304万	307万	△3万円
清掃作業収入	163万	163万	0
受注作業収入	10万	9万	1万円
その他作業等	7万	7万	0
合計	994万	1,006万	△12万円

【成果と課題】

	令和5年度目標（円）	令和5年度実績	目標達成率
クッキー製造事業	510万	538万	105.5%
パン製造事業収入	304万	379万	124.6%
清掃作業収入	163万	170万	104.3%
受注作業収入	10万	7万	70.0%
その他作業等	7万	16万	185.7%
合計	994万	1,110万	111.6%

	令和5年度実績（円）	4年度実績	前年度同時期との差額
クッキー製造事業	538万	520万	18万円
パン製造事業収入	379万	307万	72万円
清掃作業収入	170万	163万	7万円
受注作業収入	7万	9万	△2万円
その他作業等	17万	7万	10万円
合計	1,111万	1,006万	105万円

2) 人材確保と育成

- (1) 常勤換算12.8名(管理者、サビ管含む)の職員体制の安定確保
(これまで運転業務ができない職員が多く、外出作業ができる職員が限定されていた。)
- (2) 職員の複数担当制による相互補完体制の強化
 - ① 自動車運転業務が可能な職員の増員
 - ② 各職員が複数の作業に従事する仕組みを作る
- (3) 職員間の連携強化
- (4) 利用者との関係性の構築
- (5) 利用者支援スキルの向上

【成果と課題】

- (1) (2) 前述のように7月末に計画の採用数3名を達成することができたものの、10月末、3月末に各1名の職員の退職があり、職員体制の安定確保には至らなかった。今年度採用した職員3名全員が運転業務に携わり、送迎や屋外作業などを複数の職員で柔軟に対応することができた。また、その他の職員も自分の担当以外の作業に携わることで、運転業務負担軽減や職員固定については改善が図られた。但し、前述のように各職員が複数の業務を担当することによる相互補完体制の強化についてはまだ不十分である。
- (3) 職員間の連携強化については、コミュニケーションをとる目的や必要性について繰り返しミーティング等で共有を図ったほか、8名の職員が法人内の他の事業所での実地研修を通してコミュニケーションの具体的な手法等について学習した。これらの実践を通して職員間のコミュニケーションに改善が見られてきた。また、徐々にではあるが、各作業の残務や行事の準備などの各自の担当以外の業務を補完し合う場面も増えてきた。
- (4) (5) 利用者との関係性は全般的に良好である。また、利用者一人ひとりの特性や支援方針や方法については、職員間で意見交換を行っているほか、新人職員へは先輩職員からの実践を通じた指導を行い、職員全般のスキルアップが図られている。自分の担当以外の利用者への関心の薄さが課題であったが、職員が複数の作業に携わるようになったことも影響し、この点においても徐々に改善が図られている。

3) 経営管理

(1) 訓練等給付費の安定確保

1日平均利用者40人(50人在籍利用率80%)を目標とし、利用者の安定通所を図る。
(令和4年度2月末実績:1日平均利用者38.5人、48人在籍—令和5年2月末現在。)

【成果と課題】

今年度の新規利用者が3名、年度途中の退所者が3名により利用者数は48名となった。長期入院や新型コロナウイルスの感染拡大等による利用自粛が大きく影響し、1日平均利用者数は38.9名となり目標の40名には達しなかったが収支は黒字となった。

(2) 月次試算による経営状態の把握

毎月の月次試算の分析を丁寧に行い、予算執行を計画的に行う。

【成果と課題】

月次試算表をもとに毎月の経営状態を把握し、支出についても計画的に予算が執行された。

(3) コスト削減

節電節水節約に務めコストの削減を行う。

【成果と課題】

年度当初はコスト削減への意識が不足し、節電が不十分であったが、徐々に改善が図られている。

8 その他の成果と課題

- 1) 希望する職員及び利用者へ新型コロナウイルス及びインフルエンザのワクチン集団接種を実施した。

- 2) 新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度から中止していた余暇活動である音楽教室を11月より月1回から再開した(以前は月2回実施)。利用者は以前と変わらず約20名が参加し音楽に触れ大変に楽しんでいる様子が伺えた。

9 事故等報告

1月20日～26日に利用者、職員合わせて9名が新型コロナウイルス感染症に罹患するという集団感染が発生した。重症者はいなかった。

10 開所状況

- 1) 開所期間 自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日
2) 開所日数 (1) 週開所日数 5日間
(2) 開所時間 午前9時～午後4時
(3) 年間延開所日数 243日間(前年度 242日間)
(4) 平均活動時間 7時間

11 利用状況

- 1) 利用者延人員 9,455人(前年度 8,964人)
2) 1日平均利用人員 38.9人(前年度 37.2人)
3) 体験実習者延人員 44人(前年度 35人)
4) 1日平均実習人員 0.18人(前年度 0.14人)
5) 実習者実人員 17人(前年度 9人)

12 利用者状況(令和6年3月31日現在)

- 1) 年齢
20歳未満 2名
20歳以上30歳未満 16名
30歳以上40歳未満 11名
40歳以上50歳未満 10名
50歳以上60歳未満 9名
60歳以上70歳未満 0名
70歳以上 0名
- 2) 障害の状況
愛の手帳 44名(内身障手帳5名、精神保健手帳2名)
身体障害者手帳 7名(内愛の手帳5名)
精神保健福祉手帳 3名(内愛の手帳2名)
手帳不所持 1名
- 3) 通所手段
送迎車利用 20名(内1名家族送迎、5名交通機関、徒歩等2名)
交通機関利用 11名(内5名送迎)
徒歩等 20名(内2名送迎)
家族送迎 5名(内1名送迎)
- 4) 居住状況
管内居住 38名 管外居住 10名
- 5) 性別
男性 29名 女性 19名

13 生活支援PG実施状況

- 1) 実施日数
(1) PG実施日数 145日
(2) 週平均実施日数 2日

- 2) 利用者（令和6年3月31日現在）
- (1) 利用者数 2人
 - (2) 利用者延人数 145人
- 3) 支援者（令和6年3月31日現在）
- (1) 職員 2人
 - (2) ボランティアスタッフ 4人
 - (3) 職員延人数 3人
 - (4) ボランティアスタッフ延人数 142人
- 4) 内容
- (1) ウォーキング 145回
 - (2) プール 0回

1.4 夕方生活支援事業実施状況

- (1) 参加者 実名 延べ324名
 (2) 延実施回数：91回

【月別実施状況】

実施月	実施回数	延参加人数
4月	7回	25人
5月	8回	29人
6月	8回	31人
7月	9回	31人
8月	8回	31人
9月	7回	27人
10月	8回	27人
11月	8回	25人
12月	8回	27人
1月	6回	21人
2月	8回	24人
3月	6回	26人
合計	91回	324人

【内容別実施及び参加状況】

内容	実施回数	延参加人数
さんぽ	7回	23人
ボウリング	36回	144人
料理	10回	47人
テーブルゲーム	4回	12人
ドライブ	12回	55人
DVD鑑賞	12回	24人
ヘアカット	9回	16人
ゲームセンター	1回	3人

1.5 環境の整備

定期的に室内や建物周辺の清掃を実施し、年間を通して清潔な環境を保つことができた。

1.6 防災

災害時避難訓練（自衛消防訓練）を年2回実施した。